

CAVOK 2014年航海日誌 NO3  
(6月9日(月)Kinidos ~ 6月21日(土)Kemer)

松崎義邦氏メール(6月23日)

皆様に

3日ほどトルグトレイスで強風のため風待ちをしましたが、その後日比谷、磯両夫妻との航海はお天気と風に恵まれて順調な航海が出来ました。

午前中出港して昼ごろ到着するパターンを繰り返しましたが、サマータイムのお蔭で日没が遅く暗くなるのが21時頃にるので日中の時間が長くなり現地での観光も楽しむことが出来ました。

カルカン(Kalkan)では世界遺産になっているクサントスの遺跡も観光しました。

我々夫婦にとっては三回目のルートになりますが、何処も素晴らしいので今回も新鮮な航海でした。

地中海に面している南トルコの風は、この時期南西風が季節風になりますが、午前中は殆ど無風です。午後1時過ぎになると南西風が強くなるのが日常のパターンです。我々はその南西風の恩恵にあずかりセーリングの時は殆ど追い風で気持ち良いセーリングが出来ました。

予定通り17日にケメルに到着して20日に日比谷、磯両夫妻がイスタンブール経由での帰路に着きました。

ケメルでは昨年知り合ったトルコ人のブレンドさんの案内で色々楽しむことも出来ました。

22日からは私の山の師匠がお嬢さんと一緒に来られ、綺麗な海を又楽しみたいと思っています。

今年の前半の航海はこの航海で終りなので、次回はトルコからギリシャへの後半の日誌を送らせて頂きます。

Kemelにて

CAVOK5 松崎義邦

添付写真

1. Ekrincik(6/11)



2. Fethiye の岩窟墓(6/12)



3. Fethiye の Yacht Calassic Hotel Marina(6/12)



4 . Gemiler((6/13)



5 . Kale koy(6/15)



6. Karoloz の入り江のガッレタ船(6/16)



## 航海日誌

6月9日(月)Knidos ~ Bozukale (36NM) 晴れ 微風

今日は36NM 走るので早めの出港を予定して7時過ぎに朝食を済ましたが、横抱きになっているヨットの人達がなかなか起きてこない。起こすのも悪いと思って暫く待つことにした。幸い8時過ぎに起きてきたので早速我々出港したいと伝えたら直ぐ艇を離してくれたので8:30に舳いを解く。静かな海面を機走するがシミ島との海峡を越えてから南南東の順風が吹き出しセーリングを楽しむ。お昼は秋刀魚のかば焼き丼を味噌汁で頂く。食事中はヒールを少なくするためジブ、メインともリーフしてゆっくりとれるようにした。

100円の秋刀魚のかば焼きは美味しかった。

チャーターヨットが多くなってきたのでBozukaleのアリババに電話で連絡して予約を取った。

先日買った携帯があるので料金を気にしないで気安く電話が出来る様になり便利になった。

予定通り15:00にアリババの棧橋に舳いを取る。

一休みの後ビザンチン時代の城塞に登る。ここからの入り江の景観は何度観ても素晴らしい。

同じ棧橋にトルコ人夫婦2組が載っているヨットが居たのでお話したところシンフォニーのコーデネイトもやっているとの事で磯さんが御嬢さんの絵里子さんのお話をしたら大変興味を持っているいる磯さんに尋ねていた。磯さんの御嬢さんの磯絵里子さんは有名なバイオニストだ。

彼らも明日我々と同じ目的地に行くということなので又会うことを約束する。

綺麗な海で全員泳いでから、食事に行く前の夕暮れの一杯を楽しむ。

アリババでは、メゼ、イカフライ、オラーダのグリル、チキンキャサロールを白ワインで食べる。

6月10日(火)Bozukale ~ Ciftlik (15NM) 晴れ、微風 ~ 西5ノット

今日は15NMの距離なのでゆっくりセーリングを楽しむことにして朝食後0900に知り合ったトルコ人夫妻に先に行っている旨告げて、アリババの棧橋の舳いを解く。

出港後直ぐセールを揚げて静かな海をのんびりセーリングで楽しむ。

この時期になると行き交うヨットが多くなり何艇ともエール交換をした。

チフトリックも人気の場所でヨットが集まるので途中電話で予約をする。

チフトリックの湾に入り前回も寄ったRafet Baba レストランの棧橋に13:10舳う。

前回の寄港を覚えてくれ歓待をしてくれる。

お昼は着いてから胡麻だれ蕎麦を頂く。午後はそれぞれうたた寝したり海岸のベッドで休んだりして過ごす。アリババで知り合ったトルコ人夫妻の艇が別のレストラン棧橋に舫い、昨日アリババで隣に居たイギリス艇が偶然に今日も隣に舫った。

私はいつもの日課の海水浴を透き通った海です。

19:30 にレストランでメゼとイカフライ、ラムのキャサロールをチャンカヤ白ワインで食べる。ここの従業員はとってもフレンドリーだ。

艇に戻ってコックピットで月夜を眺めた後、眠りに就く。

6月11日(水) Ciftlik ~ Ekrincik (17NM) 快晴 微風 ~ 南西 5 ~ 9 ノット

0905 にトルコ人の Mehmet さんに別れを告げて舫いを解く。

今日も静かな海面で1時間程機走した後、南西の風が吹き出したのでセーリングする。

途中からはジェネカーも揚げて5ノット前後で帆走する。行き交う艇も多くなる。

昼食は昨日の残りのドルマをスープ風にしてハヤシライス風の料理を頂く。昼食後13:15 にエキンチックの棧橋に舫う。今回でここは我々夫婦3回目の寄港になる。

ここはレストランが有名で美味しいシーフードを出してくれる。19:30 からの予約を入れる。

ドイツ人達の若いグループが来ていて棧橋で車座になっておしゃべりをしたり、泳いだり楽しんでいた。

その中の一人の女性が CAVOK5 の前に来てお話をしてきたので艇に招いてお話をする。

彼女はコスタリカ人で、ベルリンで仕事をしているそうだ。3艇のヨットをチャーターして25人の若い仲間に来ているとの事だった。

すっかりお友達になり日本にも来るよう勧めた。

夕食は棧橋の上にあるレストラン“My Marina”に行く。

白ワイン、メゼ、サラダとフライドポテトを注文してメインにグルパー(クエの一種)のグリルとスープ仕立てにする。

3kg のオラーダを頼んだが2匹で3kg がきて、前回食べた味に比べて負けた。

静かな夜にキャンドルライトを点けてコックピットで一杯飲んで寝る。

6月12日(木) Ekrincik ~ Fethiye (35NM) 快晴 微風 ~ 南 17 ノット

0820 に舫いを解き、相変わらず静かな海面を機走する。この辺りの天気が安定しているときは午前中微風で午後1時過ぎになるとやっと安定した風が吹き出す。

1時間程機走した後気まぐれな風が北から吹き出しセーリングをするが長くは続かず機帆走になる。お昼に肉じゃがとパンを頂いた後に南西の風が吹き出しジェネカーを揚げて15ノットほどの風の中7~8ノットの速度で快走する。

今回は前回一杯だった Yacht Classic Hotel の棧橋を電話で予約した。  
フェテエの入り江は奥の深い所にあり、自然に防御された素晴らしい停泊地である。  
15:20 棧橋に檣着けする。このスタッフは、前回私が予約しに来たのを覚えていてくれた。  
ホスピタリティーのあるスタッフで気持ちが良い。  
海辺のとても瀟洒なホテルで、海辺のレストランでビールを飲む。洗濯物をランドリーに出してからドルムシュ(ミニバス)に乗りリキヤ時代の遺跡の岩窟墓を見に行く。途中海辺を見下ろすローマ劇場の前を通り過ぎるがローマ時代の人達が建てた劇場は見晴らしの良い場所に建ててある。  
次に考古学博物館に寄るが日射が強いので帰りに町に寄らずドルムッシュに乗ってマリーナに戻る。  
帰ってから火照った体をプールに入って冷やす。  
夕食は海辺の素敵なレストランでメゼ、ラムチョップ、キョフテのキャセロールとチキンシシを赤ワインで食べる。3人前を6人で食べて丁度良い量だった。料理も美味しかった。  
ここはレストランで食事すると係留料 50 トルコリラ、食事しないと 1ft 当たり 1.5 ユーロで CAVOK5 だと 68 ユーロになる。  
因みに食事代係留代込で 350 トルコリラであった。

6月13日(金)Fethiye ~ Gemiler(15NM) 快晴 南 15 ノット ~ 微風

午前中にドルムシュに乗って金曜市に出かける。ドルムシュは降りたい場所を告げるとその近くで降ろしてくれる。  
野菜の市で 100 軒以上の小さい露天商が並んでいる。奥方たちは野菜を買った。  
その後町までタクシーで行き、ショッピングアケードを見てからお昼用にチキンケバブのラップを買う。  
11:50 にマリーナを出港して昼食にチキンケバブをビールで食べながら湾から出ていく。  
残念ながら南からの向かい風が 15 ノット位吹き出し機走する。  
湾の岬を越えてからフリーの風になったが先ほどの風は無くなりセーリングは出来なかった。  
ゲミレル島の裏側の泊地に向かうが近づいたらボートが来てアンカー打ちの手伝いをしてくれ、船尾からの舳りを岸に取ってくれる。ボートはレストランからでレストランへの誘いだが我々は艇で夕食を食べる予定だったので断り、手伝い料として 40 トルコリラを彼に渡す。  
この泊地は深いのでアンカーの打つ場所が難しく一度やり直した。

55m のチェーンが一杯一杯になった時にチェーンが暴走気味にできてしまい、それに繋がっているロープもチェーンの重さで大分出てしまった。30m 近い深さなので 30m の長さのチェーンの重さがチェーンを暴走させたようだ。これから深い所でアンカーを打つ時の注意事項だ。

もう一本岸からロープを取ってから早速泳ぐ。日中は 30 度を超える気温なので海に入ると気持ち良い。

その後ゲミレル島にある中世の遺跡セント・ニコラウス教会跡に行く。この島の係員が私の事を覚えていてくれ入場料を私の分無料にしてくれた。

島の頂上まで上がって汗をかいたので、艇に戻ってからひと泳ぎして体を冷やす。

午前中フェテエで買ったクルマエビをボイルして夕方から白ワインを楽しむ。

1kg プラス買ったエビがあっという間に売り切れた。

夕食はイブニングキャップからそのまま移りチキンカレーを頂く。

今日は雲一つ見ない快晴の天気だった。そして夕暮れも空の色の変化が綺麗だった。

静かな入り江で眠りに就く。

6月14日(土) Gemiler Kalkan (30NM) 快晴 微風

ゲミレルの錨泊地は岩壁に舳れを取っているのので、最初にラバーボートで岸壁からの舳れを外す。そしてラバーボートをデッキに揚げた後、アンカーを揚げるが 30m 近い底から立ち上がる底地にアンカーを打っているのアンカーチェーン プラス アンカーの重みでウインドラスも結構苦労していた。通常アンカーは 10m 前後の深さで打っているの深い所でのアンカーは要注意だ。

11:50 にアンカーを揚げた後、相変わらず静かな海面を機走する。途中パタラの長い砂浜を見ながらカルカンの港に入港する。ここはマリナーでなくガレット等の商業船と混在している港だが南の岸壁はプレジャーボートが着けられるようになっていて係員もスターンの舳れを取ってくれる。但しレイドラインがないのでアンカーを打つての着岸であった。昨年 90 トルコリラだったが今年は 105 トルコリラであった。

ここからクサントス、パタラの遺跡が近いのでタクシーを頼んで見学に行く。

クサントスは広い敷地の中に当時栄えた姿が今も見ることが出来た。

パタラ遺跡にも小ローマ劇場があり、一部修復されて当時の面影を見る事が出来た。

足を延ばして綺麗な砂浜が続くパタラビーチを見て戻る。

カルカンの外岸壁にあるレストランのロケーションが素晴らしく、夕暮れの海を見ながら喉を潤す。

港から山裾に家が立ち並び綺麗な情景だ。陽が暮れると港の周りのお店と家々の明かりが綺麗だった。



素敵な景色を見ながら、鶏のハム、ビーフジャッキー、チーズをおつまみに艇で夕暮れを楽しむ。夕食はスパゲテーノルマでワインと共に美味しく頂いた。

6月15日(日) Kalkan ~ Kalekoy (28NM) 快晴 微風 ~ 南 15 ノット

朝食後 09:10 にアンカーを揚げて出港する。

相変わらず午前中は微風で機走する。途中風が南から追っ手の 4~5 ノット位吹き出したのでジェネカーを揚げてのろのろセーリングする。お昼にスパゲティーペペロンチーノを頂く。暫くして残り 10NM を残すあたりから風が 15 ノット以上強まり快走した。

ケコバ島の海峡に入るまで快適なセーリングを続けた。

途中電話で予約しておいた前回も寄った Roma レストランの棧橋に 16:10 に着ける。

顔なじみの夫婦が舳れを取ってくれた。

早速目の前に聳えている城跡に登る。ここから見るケコバロード(ケコバ島との海峡)の見晴らしは何度見ても素晴らしい。

夕食は Roma レストランで魚スープをメインに食べる。3kg ある鯛をスープにしたもので美味しかったが半分も食べきれず持ち帰りにする。

19時過ぎまで 20 ノット近い風が吹いていたが夕暮れとともに治まって夜は静かな海面になった。

6月16日(月) Kalekoy Karoloz(5NM) Finike(15NM) 晴れ 微風 ~ 南 10 ノット

カレキョイの城跡と花々で綺麗に飾られた水辺の景色を見ながら朝食を済まし、馴染みになったレストランの夫婦の見送りを受けて 08:55 にここから 5NM 先のケコバ島の入り江カロロツァに向かう。

入組んだ入り江の奥にひっそりとあるアンカーレッジには既に 3 艇アンカーリングしていた。09:50 にアンカーを対岸の付近に打ち船尾を反対側の岸壁の岩に舳うのだがマコ(日比谷)が舳れを持って泳いで行って舳れしてくれた。

早速綺麗な海に飛び込む。お昼には昨日の魚スープを使ったおうどんだったが魚スープとおうどんがマッチして美味しかった。

静かな入り江での時間を楽しんで 13:15 にアンカーを揚げて Finike に向かう。

15NM の距離を後ろからのそよ風を受けながらジェネカーを張って 3~4 ノットの速度でセーリングを楽しむ。途中から順風になり速度もましたが 15NM の距離を 4 時間かけて楽しんだ。

17:20 に Finike のマリーナに入る。VHF で連絡するとラバーボートで迎えに来てくれた。

久しぶりのマリーナでのシャワーを浴びて夕食を楽しむ。



マコが美味しい野菜炒めを作ってくれ、ちりめんさんしょ、牛肉のしぐれにをご飯と一緒に頂く。昨日のレストランの食事以上に美味しかった。

食後の一杯を飲んだら免税店で買ってきてもらったウイスキー、バーボン、ジンすべて空になり眠りに就く。

6月17日 Finike Kemer(42NM) 快晴 微風南西～南 10ノット

日比谷、磯両夫妻の最終レグになる。

トルグトレイスで風待ちした後8日に出港して以来好天に恵まれ快適な航海が出来た。最終日の今日も良いお天気で08:40 舳いを解きマリーナの出口にあるガスステーションで

軽油を満タンにする。トルコはガソリンが高く128L 入れて560トルコリラになる。1リッターあたり220円になる。

ほぼ無風状態の中機走するが2時間ほどすると北西の風が吹き出しセーリングするが、お昼すぎにこの風も止まる。

お昼に鮭と梅干しのお握りを味噌汁で頂くが久しぶりのお握りは胃袋に吸い込まれた。

昼食をして暫くすると今度は西からの風が吹き出し再度セーリングを楽しむ。その後も風が変わり機走したりするが最終的に南の風になり心地よい追い風のセーリングを楽しんだ。

16:20に久しぶりにKemerのマリーナに舳う。丁度この時間ガレットが到着して混雑していたがラバーボートが来てくれ舳いを手伝ってくれた。

ここ在中のトルコ人の友人のプラントに電話して今日の夕食の予約をお願いしておく。

着いてからマリーナのレストランでハッピーアワーのビールを一杯飲んでシャワーを浴びた後、火曜バザールに早速買い物に行った奥さん達が帰って来たのでプラントのお店に行く。彼の店でアナトリアからのコーヒーを頂くが今までのトルキッシュコーヒー違った味でコクがあり美味しかった。

レストランは彼の店の近くでシケバブを食べる。今回で三回目になるが美味しけバブだった。

ブレンドが色々と気を使って良くやってくれるので助かる。

Kemerの町は夜中になってにぎやかだ。正に夏のバカンス村になっている。

6月18日(水)Kemer 快晴

今日はプレントの案内でアンタルヤ考古学博物館、カレイチ、スープレストランに行く。町の温度計が41度指していた。全員で7名になったのでプレントは7名乗れる車を弟さんから借りてきてくれた。

夜はベリーダンス・デナーに行ってトルコの踊りを楽しんだ。23時に帰艇して艇の上で朝3時近くまでおしゃべりをして寝る。

6月19日(木)Kemer 晴れ

ケメルに来て気温が上がっている。今日も昼過ぎまで風が無く暑い。

今日は各自ゆっくりとそれぞれの時間を過ごす。

久しぶりにデッキを洗うが大分汚れていた。汗を流しにマリーナの水泳用のプラットホームから飛び込み体を冷やす。

悦子とロッコは今晚の夕食用のラム肉をブランドの案内で買い行く。

夕食はラムチョップ、ラタージュ、野菜サラダ、ポテトのガーリックグリルをブランドが持って来たワインで頂く。

日比谷、磯両家との最後の晩餐を楽しんだ。

6月20日(金)Kemer 晴れ

日比谷、磯家 13:30の便でイスタンブールへ。空港までタクシーを頼む。150トルコリラ。

楽しかった16日間も何事もなく無事に終わり良かった。日比谷は大学のヨット部の同期であり今回3回目の参加、磯さんも諸磯でクルーザーに乗っているので大変心強い航海になり、又色々お手伝ってもらい助かった。

そして両夫人もすっかり海に溶け込んでくれ、航海に花を添えてくれた。

22日から高橋さん父娘が来るのでその準備をする。マット水洗い。部屋のクリーニング、シーツを洗濯に出したりする。

悦子はブランドさんの家に行きお昼をご馳走になりバザールに行った。

夕方入道雲の端っこが被ってきて小雨が少しだけ降るが風が冷えた風になり過ごしやすくなる。風が無いと暑い。

二人になったので夕食は簡単にしてラタージュとシャケご飯を味噌汁で頂く。

久しぶりに涼しい夜で熟睡になりそうだ。

6月21日(土)Kemer 晴れ

午前中艇の整備をする。お昼はチキンケバブを買ってきて艇で食べる。ギャングウェイ(艇と岸壁との梯子)とビミニ(日除けテント)の改善をしたいところがありこのメカニックと打ち合わせをする。

明日高橋さんと御嬢さん、彼女のお友達を迎えに行くのでブランドさんにホテルまでお迎えをお願いします。

夕方泳いだ後、ハッピーアワーに久しぶりに行くが賑やかで15名位集まっていた。

夕食は艇で日本食を頂く。

ゆっくりとした一日をのんびりと過ごした。